

TOWN

続けられれば奇跡が起こる

日向市出身 ダンサー 西島数博さん 後輩にエール

バレエダンサー・日向市観光大使を務める西島数博さん(47)が20日、母校の日向市富高小学校(中西浩美校長、407人)を訪れ、全校児童を前に「夢は見るものではなくかかえるもの、かかえるための強い気持ちと努力が必要」と強調し、児童らが夢に向かって頑張る姿をすこぶ応援して、「いま」とメッセージを送った。

卒業の話聞いて 将来を考へるきっかけとするキャリア教育「もうこそ先輩の一期、改築工事が進む同 校舎管理棟の利用が新年度から始まるが、卒業するの年生のため思い出をうけついでほしい」と内覧会に合わせ

て来校を依頼したところ、お祝いも兼ねて駆け付けてくれたという。西島さんは3歳か

ら、同市の伊達バレエスクールで母親からクラシックバレエを学んだ。富高小・日向中から宮崎日大高に進学。同高には電車通学し、卒業まで市内に住んだ。現在はダンサーとして活躍する傍ら、俳優や振付家など、国内外で幅広く活動するアーティストとして知られている。昨年5月には日向市観光大使の委嘱を受けた。

後輩たちを前に西島さんは、自身のダンスパフォーマンスの映像をプロジェクターを使って紹介しながら「表現することは人に夢や元氣を与えたり、自分の心のメッセージを伝えることができる。とても大切な仕事で話し、40年以上踊り続けているが、ゴールの分らない世界、努力をこらえてやり続ける」と意欲的に語った。



児童と記念写真に納まる西島さん

好きな言葉として「こころの初心忘るべからずを紹介し、『これを頑張りたい』『いなりたて』二番最初に思った気持ちをキープして、同じ気持ちで頑張れることが大切と強調。自分の個性を生かせる仕事を自指して努力してほしい。ずっとやり続ける奇跡が起きる。日向市からたさんの才能が花開くことを期待しています」と呼び掛けた。

児童を代表して6年生の杉山真大(11)は「君のことは初心忘るべからず」という言葉が心に残った。今後、苦労や困難があるかもしれないが、将来の夢に少しでも近づくために初心を忘れずに頑張ってください」と謝辞を述べた。最後に一緒に校歌を合唱して心を一つにした。



講演する西島さん